

優秀賞

豊かな水を未来に

富山県 富山大学教育学部附属中学校 三年 牧野 葵

私の通学路には大きな橋がある。富山を代表する河川「神通川」の大橋だ。四季により川の流れは様々に変化するが、どんな時でもそれは絶えず流れている。

五年前、私は両親の生まれ故郷である富山に都市から移り住んだ。当時、私の肌は湿疹で酷いものだったのだが、次第に良くなり治っていったのを鮮明に覚えている。移って三ヶ月後には、皮膚科への通院も保湿のための塗り薬も全く必要がなくなり、肌が潤っていったのだ。その理由を詳しく知りたいと思い、富山の水について調べてみたことがある。

世界各国の有名なミネラルウォーターを十種類以上用意し、「石鹼の泡立ち方」、「成分」、「硬度」について細かく調べた。驚くことに、富山の私の家の浴室の水道水の成分は、日本で飲料用ミネラルウォーターとして売られている有名なものと似ている点が多くあった。一番大きな特徴は、硬度19.5という点で、超軟水ということであった。

「軟水」とは、少ない石鹼でもたくさん泡がたったり、お米が甘くふつくと炊けたり、口触りがよく胃腸に負担なく飲める優しい水のことである。少量の石鹼でたくさん泡が立ち、石鹼カスができにくくそれが肌に残らないという利点をもたらず「軟水」が私の肌を改善してくれたと考えた。「水が合う」というが、富山と私はまさにその言葉のとおりだったのだ。

ここで、富山の水についてさらに深く調べると、次のようなことがわかった。富山には主に七つの河川があり、それらが各地域への水道水となっている。川を流れる水は主に立山連峰落差3000メートルからもたらされる雪解け水である。多くのミネラルを含んでいる一方で、海まで50kmの急流河川と過度なミネラルを溶出しない富山平野の花崗岩により軟水となり私たちのもとに届く。また、富山は雨も多く、ミネラル豊富な立山の雪解け水とともに雨水もまた地下に浸透

し、時間をかけて濾過されながら伏流水として地下を流れ、生活用水になっている。地形、地質、豊かな水循環がミネラル豊富な軟水を生み出しているということがいえる。

調べたミネラルウォーターの中に黒部で採取されたものがあつたが、こちらは私の家の浴室の水よりも硬度が高く、よりミネラルを含んでいるという結果であつた。

このように、同じ富山県内でも硬度もミネラル量も違う水が採取されるという、まさに富山は「水のデパート」ともいえるほどにバラエティに富んだミネラルウォーターが各所で採取されるということにも驚きを隠せなかった。これらの恩恵を蛇口を捻っただけの水道水で受けられるとは、富山はとても贅沢な場所である。これは、この地に移り住んだ私だからこそ気づけたことでもある。

その昔、神通川には公害の歴史があつたり、最近では陸地からのプラスチックによる深刻な河川汚染問題が発生していたり、富山の水を取り巻く環境は決して良いことばかりではないことも事実である。また、昨秋には、市の中心部で水道管の老朽化により水道管が破裂し漏水してしまうこともあつた。これらは全国でも年間約二万件も発生しているそうで、ライフラインとしての上下水道の今後を考える上で深刻な問題でもある。

当たり前の水道水は、当たり前ではないのだと思う。先人や公害の被害者の方などをはじめ、水に関わるすべての人々の苦労と努力によって、私たちのもとに届いていることを忘れてはいけない。今、私が使っている富山の水道水。それは名付けるなら「豊かで誇れる故郷の水」ともいえよう。これらはすべて未来からの借り物で、必ず次の世代に確実に渡さなければならぬと強く思う。水を取り巻く全ての恩恵に感謝しながら、私は今日も神通大橋を渡る。